為之祭

芦屋市公報

第2號

秋夜のひととき熱情のしらべ、

奏でるは提琴界の明星　遠藤磨里さん（九頁参照）

——（ハナヤ勘兵衛氏撮影）——

芦屋詠

岡田　眞

日曜に畑を打ちて息づくに六甲山を親しみ止まず
打出の沖とどろとどろに海鳴れば暗き臥床に目をあきてをり
小出櫓重ねがきし芦屋風景は阪神電車傾きてゆく

芦屋濱夜景

早野・臺氣

望楼ノ電燈ハアタリノ夜ヲヤブリ猫ガヒゲハネタ光線ヲナス
ルノウミ暗キモココロ書ナレバぽんトイフラムネノ玉ナシアヲム
マルキ月モ雨氣グモリニヒカリ沈ミヒログウミ灘ムネズミイロナス

芦屋風物詠

冬木三左

あしのやのうなひ乙女が月に向き呼ぶ声とほる松と風のみち
ヨットハーバーにあくまで蒼きはてもみむ磯のうちでの野いばらの歌
猿丸の歌仙大夫のおくつきに空の蒼さや海山のあひだ

あしや

生田嘉作

溪々の岩間くゞりてたぎりおつる芦屋の川は瀬々に瀧なす
城山はあしやの秀峯いくさびと夢にもきゝし淙々の水
まなかひのはての鷹取陽を呑みて並樹銀杏に茜雲映ゆ

あしや第二号目次

芦屋を讃へる歌……1
秋分の日國旗を城山に掲ぐ……芦屋市長　猿丸吉左ヱ門……2
題字「安之彌」解説……3
合併問題の現段階……合併委員長　川越　清……4
新市建設構想試案……6
山地開発軌道に乗る……兵庫縣会議員　堺谷留吉……8
栄冠の陰に涙あり……9
市民の声「無視できない功績」……12
P・T・Aサロン「芦屋の子供のために」……13
山本一人大いに語る……14
猛練習に耐え得るか……16
全日本制覇のあと……芦屋女子高校　福田　元……17
あしや風土記……早野臺氣……19
温かい氣持で迎へよう……市会副議長　井田健次郎……21
芦屋市青年諸君に寄す……連合青年会長　神田　清……22
特別都計について……建設局長　越賀敏夫……23
海を越へる打出嶺……宙外生……24
自轉車を愛しませう……芦屋警察署防犯係……24
道路の整備を急げ……斎木道久……25
御存じですか皆様の「選管委」を……選管委員長　佐々木清次……25
各課だより……26
―表紙、挿絵ならびにカット……柴谷宰二郎―
―写眞……ハナヤ勘兵衛―

秋分の日、國旗を城山に掲ぐ

芦屋市長　猿丸吉左エ門

このたび、われわれ芦屋市民が、日頃夢寐に深く刻み込んでいる城山を、きのう、開びやく以來初めて我々の市に使用し得る許可を得たので、山地開発の最初の基点として、山頂高く日の丸の旗を掲げたのである。

この日の丸は芦屋市婦人会からの寄贈になるもので、紙上重ねて厚く感謝の意を表する次第である。

申す迄もなく、過去の日の丸は戰車の上、銃劍の先に、或は艦船の檣頭高く掲げられ、軍國主義の表徴として、誤まられた崇拜觀を國民に抱かしめたが、一敗地に塗れたために、國民は日の丸の國旗に対し憎しみの感情をもつて、これを疎にし、深遠なる國旗に対する愛情を遠ざけておつた。

諸君、久遠の昔より我々の民族は太陽を崇拜して來た。この太陽を崇拜することによつて、太陽民族として、生活上の一大信仰の対稱として、あの雄大なる、何ものをも焼き盡くす灼熱の如き固き意志。然も反面太陽は森羅万象を生成せしめる慈愛の象徴として、永久しえに我々民族の信仰の対象である。この太陽をシンボライズした國旗こそ、我々の正義、平和を愛した日本人の信仰にまで近き國旗であつた。

占領下、マッカーサー元帥の温情により、祝祭日にこれを掲げよとの許可は正しき理性を通して國旗を再び崇拜せよとの思召に外ならんと思う。

我々敗戰後の社会生活未だ昏迷の域にあり、思想的にも社会変革を意図する火事泥の様な分子の跳梁を、この國旗の掲揚によつて少くとも國家再建の大同團結へ導いてくれゝば望外の收穫であろう。

今後我々は、國旗を以上の目的をもつて、芦屋の町中はおろか、六甲の頂上にまで、掲揚台を進めてゆきたい。

筆者が若かりし頃アメリカにて映画見物中、アメリカ國旗が現われる場合、アメリカ人は、威儀を正して脱帽これに心から敬礼していた。中に脱帽せざる者は、後の者が背中を強くノックして注意していたのを見た。あの自由主義のアメリカに於ても、三十年前既にかくの如し。

去る日、市の公務で上京中、文部省の隣の大藏省の前で筆者が林野廳より虎の門へ出る途中、乘つておる車が急に止づだので何事が起つたのかと前方を注視すれば、進駐軍の自動車が三台も停車しており、將兵が車外に出で大藏省の方に向つて敬礼しておる姿に、私は誰か、マッカーサー元帥に敬礼しておるのかと思つて目を横へ、その方向へ流したところ鈴懸の街路樹の彼方には、それらしき何ものも認められず、向う側を馳るG・Iのジープが電氣仕掛の如くストップし、轉び出るが如く車外に出て、空高く注視するのを見て、意外に思い上空を仰いだ時、鈴懸の街路樹の彼方、白堊の建物の上にアメリカの星條旗が夏雲の中に翻翻としてひるがへるのを見た。その建物がアメリカ軍の宿舎にあてられていたことを思いあたり、宜なるかなとこの嚴粛なる街頭の風景を見て感極まるものがあつた。

我々は既に永久に武に対する面は放棄した。ただ誇るは人類愛という慈愛の面に、この國旗を世界平和への精神的なるシンボルとして、國内的にも、外交的にも、堂々と空高く掲げるの決意を新にしたのである。大日章旗を城山山頂に掲げる佳き日にあたり、われわれはここに改めて祖先を偲び、芦屋市の前進を壽ぐよすがとしたいのである。

（九月廿四日記）

題字『安之彌』解說

本号の題字は、伊都内親王願文の中から撰び出したもの。現在翠ヶ丘町にお墓がある阿保親王はその御夫君であり、かつかつて芦屋に住していたと傳へられる在原業平はその息で共に芦屋にゆかりの深い人。

ことに、この願文は日本三筆の一人といわれる橘逸勢の書で、靈氣の逆る名筆であるが、いろいろの制約を受け、やむを得ず表紙絵の作者柴谷宰二郎書伯に臨書して戴いた。

この様な表現は、名筆を冒瀆することになつて、まことに畏い次第であるが、各位の御諒恕を希う次第である。

合併問題の現段階

芦屋市会合併委員長
川越　清

本市と本山、本庄両村との合併案は、すでに年久しいものである。一昨年五月故杉岡市長は、両村を含む西部五ヶ町村と本市と合併していわゆる中南市を建設することを提唱され、故岩谷省三氏の熱心な調査と斡旋があつたはれども、機運なお熟せず、約一年にして流産した。然るに昨秋本市が「文化都市芦屋の將來」なる懸賞論文を募集したところ、その応募者の大多数は、異口同音に文化政策の基盤として、現在の市域はせますぎる、せめて隣接両村と合体すべしと主張されたのであつた。たまたまその頃から、一時鳴りをひそめていた神戸市からの西部五ヶ町村への呼びかけが、にわかに強化されたので、これに対する本市民の関心も高まり、遂に昨年十二月市会協議会において、満場一致で、一市二村を解消し、新市を建設することを決議し特別委員をあげてこの問題を考究することになつたのである。

われわれの主唱する解消合併は、三者が裸になつて新しい市を作ろうというのであるから、大都市の吸收合併とは異なる。吸收合併では、あれもしてやろう、これもしてやろうと、一見甘いようであるが、自主性は根本的に喪うのである。解消合併はあくまでも自主性を喪うことなく、しかも新市のゆくべき道は、われわれの新たに選んだ市長、議会並びに公聽会によつて決定するのである。しかしそれへ行きつくまでに、同じわれわれの手で、基礎となるべき構想を研究することも有意義でなければならぬので、委員等は協力して別項の如き構想試案を作り、これをもつて、市民各層の代表者の意見を問うたところ、全面的に支持を得たので、本山、本庄両村に提示して意見を求め、かつ三者一体となつて、眞摯な研究をしようではないかと申入れたのである。一方われわれの構想を支持された市民たちは、期せずして新市協力会を組織され、有志として両村民に対

し強力に働きかけられたので、日ならずして多数の共鳴者を両村に得たのであつた。

しかし本山、本庄両村当局者からは目下神戸市との合併問題につきその得失を研究中であるから、それが一段落するまでお待ちを願いたいという回答に接した。今併の如きはその住民にとつて大きな問題であり、あくまで愼重にすべきものであるから、一応両村当局者の回答を諒としたのであるが、両村は部内の種々の事情によつて正式の回答が今に至つても、まだ來ないのである。最近今併問題が大きくクローズアップされるに從つて、今併の構想が一般市民に知らされていないということを屢々聞くのであるが、われわれの提示した構想試案は、われわれとして最善を盡したものであるが、或は一方的であるかも知れないので、両村の方々と虚心坦懷に考究することによつて得た案を、さらに公聽会を開いて一市二村の住民諸氏の民意を問いたいと念願したのであるが、残念ながら、まだその段階に達していない実情にあるのである。

そこへ降つて湧いたかの如く現われたのは、いわゆる二市七ヶ町村合併論なのだ。個人の場合でも西の人に向つて話しかけている最中に、東からよい話をかけられたとしても、西の人を放り出して東へ向いて行つたら、信義と礼讓に背くことになるであろう。新市建設の問題についても同様に考える。われわれとしては、非制式ではあるが、市会協議会、市民各層代表者によつて満場一致承認、推進された案を提示した以上、両村よりも、同様に民主的段階を経たる回答を期待することは当然であり、それこそ自治体間の信義であり、友誼であると信ずる。

而してもし幸いにして両村において新市建設是なりとされるならば、われわれは双手をあげて理想に邁進するであろう。またなお協力して研究しようとされるならば、それもまた喜んでその希望に副う用意がある。もし不幸にして芦屋市の提案を根本的に容れられないならば、そのときこそ芦屋市は独自の立場において、その最善の道を考究すべきである。二市七ヶ町村合併問題も、そのときにいたつて始めて取上ぐべき問題だと思うのである。けだし政治の上において、信義は特に重んじなければならぬのみならず、合併の如き重大問題は一日の功を急ぐべきではないからである。去る九月十四日の市会協議会の結論もまたこの趣旨に他ならないのである。

最後に合併のように利害の錯綜する重大問題は、その間往々にしてデマが横行し易い点をとくに戒心されると同時に、市民の一人々々が両村に共鳴者を得て下さるよう御協力をたまわらんことを衷心よりお願いする次第である。

新市建設構想試案

一、合併理由

沿革上、地域上、財政負担の軽減上、行政機構の整備上戰災復興促進上、組合事業上及び住民生活の上から考へ、三市村の合併は自然的必然性をもつている。

二、三市村の現況

	芦屋市	本山村	本庄村
面積	一五、七八平方粁	一四、七〇平方粁	一、八五平方粁
人口	四〇、一一三人	二三、六九〇人	一二、四八二人
現計予算	一四、三九、八六七円	五一、五六、一八八円	四五、三九、四五五円

三市村税率　昭和二十三年度三市村税率は略々同様であるが、独立税に於て芦屋市稍々低率、尚神戸市に比して三市村共一般的に低率である上各税種目に対する都市計画税百分の三十の課率がないだけ、市民の負担軽減となつている

その他　省略

三、合併の基本的構想

(1) 芦屋、本山、本庄三市村の解消合併を原則とし、魚崎町を誘致することも考慮する。

(2) 市名及び市役所の位置は関係市村の協議による。

(3) その他合併諸條件は三市村の協議による実行案を作成する。

四、新市の構想

教育文化都市、健康住宅都市、一部商工業港都を構想として人口十万の理想的新市の建設を目指す。

(1) 山地開発

イ、六甲横断道路の完遂

○既設路線を延長し、芦屋川上流を経て六甲縦走道路に連絡、更に有馬に至る六甲横断路線

○阪神青木停留所を基点として、北畑(保久良神社付近)を経、お多福山に至り横断道路に連絡する路線

○お多福山、花原住宅地帯の設定

○その他——学園住宅地帯の設定と遊園、体育施設の計画

ロ、観光ハイキング施設の整備——奥池キャンプ場、お多福山ゴルフ場、ロックガーデン、奥池付近温泉試掘

ハ、城山拂下による動植物園の計画

ニ、入山料徴收による財源確保

(2) 海浜施設

イ、深江港開発

ロ、打出浜にヨットハーバー

ハ、芦屋浜海水浴場経営

(3) 教育文化施設

イ、山地学園地帯に女子大学の誘致その他

ロ、海技大学の助成

ハ、新制中学校、高等学校の整備と学校区の整理

ニ、市民館、図書館、教育会館、美術館、映画館、水族館、市営印刷場、体育館等の文化施設の計画。

ホ、汐湯、娯樂遊戯場、ダンスホール等娯樂施設の計画

(4) 保健衛生施設

イ、市営上水道施設の拡充と新市域へ送水計画

ロ、下水道事業の継続実施

ハ、市立綜合病院の建設

ニ、モデル保健所への促進

ホ、市営浴場の増設

ヘ、公園墓地の設置計画

ト、塵芥焼却場の改修

(5) 市民生活の安定

イ、市内循環バスの経営

ロ、自治体警察消防の完備

ハ、庶民住宅の建設増強

ニ、電化工業地帯の開発

ホ、商店街市場の建設

ヘ、商工会議所の設置促進

ト、荷受機関の強化と金融機関の整備

(6) 戰災復興事業

イ、三市村の一元的都市計画の樹立

ロ、土地区画整理事業の促進

ハ、街路事業の完遂と路面鋪装

ニ、道路橋梁河川の改修

五、新市の行政機構と財政

(1) 市役所機構の整備と支所の設置

(2) 大都市への吸收合併に比して議員選出率の倍加

(3) 市営公企業收入の増加

(4) 財政的負担の一般的軽減

(5) 通信区域の統一

芦屋市を詠ふ

岡本圭岳

噴泉に待つ程もなし電車くる
山に來て滝あり山も街とせる
絵画美の市展は秋を深めつゝ

芦屋名勝吟

橋本雪後

川上や兀山として粧へる(城山)
花深しわがかの音に犬吠ゆる(芦屋高台)
灑々(さいさい)は紅葉重ぬる岩間かな

阿保親王御墓

天野鉄刀木

ツウイ〳〵と目白ひそめる椿かな
空濠に溜る木の実も皆同じ
参道をそめる夕日や賜高音

隨筆

山地開発軌道に乘る

兵庫縣会議員
堺谷留吉

芦屋市の生んだ市長猿丸吉左ヱ門氏は、就任以來一年。その間芦屋市の開発発展のために全能力を集中し、今や郊外都市、文化都市としての実現に邁進せられてゐることは、市民の一人として喜びに堪へないところである。

芦屋、有馬間の道路については、猿丸市長の父の時代に大いに努力せられたのであるが、工事の半ばにして現在に至つた。

前に海を控へた芦屋地方の開発は、裏山六甲へ伸びてゆくより外に方法はなく、猿丸市長はその実現に努力を傾注せられてゐる。

その計画案を聞くに、六甲縦走路に現在の縣道を延長し、奥池を第二の水源地とし、その周囲は山間住宅地として、その間に至る道路の周辺は遊牧場、植物園、自然公園、公園墓地その他の開発に、着々として軌道に乘せられている。また秋分の住き日には、芦屋婦人会の協力により、城山に大國旗を掲揚することが出來たが、更に種々の計画を実施に移すことになつていることは喜びに堪へないところである。

尚海岸は、ヨットハーバーの世界的基地としてこれまた土地決定にまで漕ぎつけ、今や実現を目前に控へるに至つたことは、市民一同の大きな喜びである。

芦屋市の大発展のために、われわれ市民としてこの実現に協力すると共に、完全なる文化、教育都市としての実現の一日も早からんことを希うものである。

栄冠の陰に涙あり

芸術と生活の二重の闘い

提琴界の明星・遠藤磨里さん

悲しみを超えていばらの道を往く

提琴界の明星として、樂壇にデヴユウした女流ヴアイオリニスト遠藤磨里さんが、今日の地位をきづくまでには血涙のにじむ精進があつた。明治、大正時代わが國の提琴界の第一人者として令名の高かつた遠藤和一氏の一人娘として生れ、父のきびしい藝術の鞭によつて、樂壇に大きくクローズアップされたのであるが、杖とも柱ともたのむ和一氏は、かりそめの病のために一昨々年の秋ふかむ頃他界してしまつた。父亡きあとの磨里さんは老いたる母に仕へつゝ藝術と生活との二重の闘いに、いばらの道を敢然として歩みつゝある。笑いのない日の連続——これは遠藤さんが樂壇にデヴウするまでの血涙の苦闘史である。——写眞は愛娘をいたわる母（左）

九才の春から きびしい訓練

ない九才の春からヴアイオリンを弾くようになつた。さすがに父の血をうけてか音樂の天分に惠まれ、藝術への萠芽がこの頃から認められるようになつた。

それから、父和一氏の猛訓練が始まつた。ヴアイオリンを弾く指の、ほんのかすかな狂いでもあろうものなら、容赦な

音樂家を父に持つ磨里さんは、おかつぱ頭のまだいたいけ

く鉛筆の鞭が飛ぶ。しびれるほどの痛さだ。しかし、その痛さをじつと我慢して、練習を積んでいつた。

そのころの血のにじむような激しい訓練ぶりを追憶して磨里さんの母はこう語るのである。

『きびしい父親の声が、だん高くなつてゆく。もう、だん雷が落ちそうだ……と思うと私は台所へ走つてゆき、水道の栓をひねつて、ジャアと水を流すのです。その音で叱る声を消すのに、何べん苦労したか知れません。――』

父の猛訓練だけではない。天分を生かして立派な音樂家に仕上げようと決心した父は母とも相談して、学校教育はあと廻しにし、ひたすら、天才教育を始めたのである。

その頃、芦屋に『兒童の村』という私塾があつた。今は三田谷啓氏の経営する「私立翠ヶ丘小学校」に合併したのだがその『兒童の村』に練習の余暇通学、さらに山室英学塾で英語と國語を勉強、自由な教育法によつて、天才の芽を伸ばすことに努力を傾注したのであつた。

藝術へのいばらの道を歩む磨里さんも、やはり人の子である。同年輩の友達が女学校に通学するすがたを見るにつけ、『私も友達と一緒に女学校にゆきたいなア』と洩らすこともあつた。しかし藝術の道は遠くはるかである。普通教育をやるその余暇に、ヴァイオリンを習うやりかたではいわゆるお嬢さん藝になるおそれがある。あくまで天分を伸ばさねばならぬ。

天才教育によつて音樂家をつくりあげてのち、一般の学校教育を施してもおそくはない。三田谷校長の進言もあつて、きびしい天才教育に終始し、その甲斐あつてか、昭和十五年、磨里さんが十四才の秋、東京日比谷公会堂で催された全國音樂コンクールに入選し、樂壇に輝かしくデヴュッしたのである。

芸術の継承者を得て父は喜んで瞑目

うすら寒さを感じる昭和二十一年晩秋、遠藤磨里さんは名古屋、岐阜方面の演奏旅行中であつた。演奏旅行に出る前に父の病は篤く、あるいは再び起てないのではないかと自覚した和一氏ではあつたが、父の藝術を継ぐ使命を持つ磨里さんを喜んで旅び立たせたのであつた。

『死に目に逢へなくてもよい、お前の告別演奏によつて、私は喜んで他界できる……』そういう決意を示した和一氏に励まされて、磨里さんは旅行に出たのであつたが、さすがに父娘の血のつながりは、こゝに霊感となつて現はれたのである。

その日、午前四時半、フト目が覚めた磨里さんは悪感がしてジッとしておれない。おかしいなアと思いながら、しばらくじつとしていると約十分くらいで悪感は納まつた。その時が父和一氏の臨終であつたことがあとで判つた。

その臨終の模様について磨里さんのお母さんは、『もう、私は何時亡くなつても何ら心残りはない。磨里も私の藝術を継いでくれるので……』そういつて夫は、藝術の喜びはあつたが、経済的には不遇だつた藝術家の一生を終つたのです。愛娘磨里を藝術の継承者として得た大きなよろこびをデスマスクに残してをりました。』そう、健氣に語る眸には光るものがあつた。

〝母と二人で海水浴場で死のうよ〟

『磨里ちやん、苦労をかけて済まなかつた』臨終の床で喜びと感謝の言葉を残して父は逝つた。そうであろう。終戰後のきびしい生活の嵐のなかに、病氣の父と母と三人の生計を磨里さんが一人で支へて來たのだから。

彼女は、京都の進駐軍ホテルへ、一週間八日の割で通つてヴァイオリンを弾き、身を粉にして働いたのだ。きびしいなかにも慈愛にみちた父母の愛、それを思へば磨里さんは、生活のための苦しみはなんでもない。藝術への精進とともに、生活との二重の闘いに血みどろの明け暮れを送つた。

それなのに、父は遂に他界してしまつた。杖とも柱ともたのむ父、ある時は師であり、ある時は父であり、またある時は音樂鑑賞家であり、音樂批評家でもあつた父を失つた磨里さんの嘆きは大きかつた。

六甲の山はだに夕霧がたなびいて、街に灯のまたゝく夕べ母と娘は手を取り合つて人生の悲しみに泣く日もあつた。感傷の底に沈んだ時など『いつそ、二人で死にませう。海水浴場で死ねば誰も自殺したとは思はないでせう。……』そういつて絶望の涙に濡れたことも幾たび。

しかし、藝術は尊い。文化日本の行末を思うにつけ、そんな感傷的な氣持は捨てなければならない。辛かろうが、いばらの道を踏みわけて進もう。――固い決意を祕めて、遠藤磨里さんは藝術と生活の難路を、今やまつしぐらに突き進ん

でゆきつゝある。

彼女の前途に栄光あれ！　そう希求するのは私ひとりではあるまい。（芦屋市清水町九番地　遠藤麝里さんの寓居を訪れた夕、M生記）

市民の声

無視できない功績

「市長に問う」に答う

☆ 前号の「市民の声」欄で、O生氏が「市長に問う」の標題下に、市長の公約についての御批判を戴き市長推薦者の一員として衷心お詫び申しあげます。

☆ お説は、四万市民の謂わんとするところのある意味の代弁であろうかと存じ敬意を表します。しかし、日に月に世狀の変遷極まりなき被占領下の行政は、中央地方を問わずある種の制約を受け、理想の実現に万全を期しがたい点もありこの点貴下もお認め下さることと存じます。

☆ 地方自治体においては政党政派の存在する筈はなく、猿丸市長が公約を無視して妥協政治を行つた云々は首肯しがたいところです。行政の円満運営を期するために、政戦当時の「きのうの敵はきようの友」と雅量を示し、三十選良と和合一致し就任僅か一箇年にして戰災三校の復旧、新制中学の建築、市営住宅三箇所、市営浴場二箇所の新設、市民運動場の新設、多年懸案の図書館の開設、芦屋川畔の櫻樹移植、地方競馬、競輪の施行ヨットハーバー建設地としての指定、山地開発計画のうち城山、剣谷の利用、市弘報の発行など相当の業績をあげてをります。

☆ これは、市会と市当局との協力一致によつてのみなし得られたところで、特に競馬においては秩父宮賞を拜受しましたことは、猿丸市長ならではの功績と存じます。

☆ 貴下のお怒りは一応ごもつともと存じますが、公約履行の一端として、過去数代にわたる当局も及ばざるこの業績この手腕に免じて、尚貸すに時日をもつてせられたく、しかして一層の御指導御鞭撻をお願い申しあげます。

☆ 当時の公約代弁者の一員たる責任感により茲に市長に代つてお答へ申しあげ御諒解を願う次第であります。

（城山山麓K生）

P.T.A.サロン

昭和二十年の峠を越して四年芦屋の子供を疎開先から再び芦屋で教育出来るようになつた。市会や役所の御盡力によつて子供達を收容する教室も一時の不自由さが殆んど取除かれようとしている。

誠に創刊号「市長の夢」が実現される時代に活躍するであろう現在の小國民の指導教育こそ文化都市の何をおいても、なされなければならぬ事と信ずる。

アメリカ大統領の來芦歓迎パーティに吾が愛兒を列席させようなどと、とんだ夢を持つ父兄は尠なかろうが、親たる者誰しも吾が子が、豊かな教養を持ち美しき街に文化的な生活を続け、幸福な生涯を送るように祈らぬはない。そして、このように勝れた教養人が住んでこそ吾が街は文化都市と言い得るのであろう。

現在もそうであろうが、私は更に、人間を造る教育の面に將來多くの市予算が組まれる事を祈る者である。

充実せる設備環境の中に、子等は日々樂しく、合理的な方法で、着々と秀でた智性と德性を身につけて行く、誠実と熱意を持つた先生方が、多くの芦屋人の尊敬を受けつゝ此處ぞ吾が骨を埋む所と寄り集いひたすらに子等の幸福を念じて戴くにも、先立つて年々の教育費の計上が根源になると思う。

私は古く保護者会と呼ばれた時代から現在も猶將來も長くP・T・Aの会員たらねばならぬ者であるが、父兄の総べての方が子女の教育に深い関心を寄せられて居る事は充分承知していながらこの関心が、それ〴〵の機会に意見となつて現れる事の少きを憂える者である。「言わざるは言うに勝る」とは井戸端会議にのみ通用する諺、新生日本の文化人の世界には、私心なく野心なければ「言うは言わざるに百倍す」と言えよう。教育やP・T・Aの運営についても、赤裸々で眞剣な意見が、それぞれの要路と当局者に、何のこだわりもなく直通する事を希望して止まない。そして市民のこの協力と先生方の御盡力によつて全き学校教育が愛兒の上に施されることになろう。

芦屋の子供のために

芦屋市P・T・A連合会長　高島久一

顧つて子女の育成は学校に預けた時間だけで成されるものではない。家庭での躾巷間に於けるよき影響があつてその子はすくすくと伸びて行く。終戰後の混乱と新思潮の「自由」とが子供を干渉されざる世界へ押しやつた感が深い。社会教育委員会が開かれても路上や家庭での子供達の問題すら学校へ責

（一五頁へ續く）

日本野球南海軍監督 山本一人

大いに語る

日本野球南海軍の名監督山本一人氏は、芦屋市打出春日町　岡田安三郎氏の甥に当り、かつて一年ばかり同氏宅に寄宿していたことがあり、芦屋市民に馴染も深く、人となりのよさは好感をもつて迎へられている。九月八日甲子園球場における対大映戦のあと、岡田氏宅を訪れた山本監督を訪ねて『芦屋市の青少年のために、特に、スポーツ愛好者のために、野球のありかたというような点について、話して戴きたい。』と依頼したところ、氏は快く大要左のように語つた。

プロ野球とアマチュア野球とははつきり区別すべきものです。アマチュアに望みたいことは、先づ精神を陶冶すべきだということです。大体、プロは技術をみせるものであり、アマチュアとは根本的に違うのです。具体的にいへば、プロは技術プラス精神――その上観衆を対象にしている。これに反してアマチュアは、精神プラス技術となつて、先ず精神というものを主体に置くべきで、技術はこれに従属する程度のもの。試合をやるにしても、アマの場合は観衆は一人もなくてもよい。従つて観衆のことを氣にする必要はない。精神がしつかりしていて、もつぱら試合そのものに全身全霊を打ち込めばそれでよいのです。

大体、スポーツマンは明朗です。この点は実によろしい。だから、スポーツはます〳〵盛んにならなければなりません。

教育新制度により、新制高校も新制中学も共学制となつたスポーツによつてある程度精力を消耗きす、変な考へを起さなくなる。これは学校の政策の一つではないかと思います。

また、スポーツをやつていれば、自然とチームワークも出てくるし、犠牲的精神を体得してくる。スポーツには老若の区別もなければ、國境の差別もない。このスポーツのもつ良さというものをうまく指導せねばなりません。

スポーツをやる以上、ある程度希望を持たさねばなりません。精神が出來れば、自然と技倆があがる。だからプロをみて、一を知らずして十を知る式の早合点の見眞似をする者があるが、これは早計ですね。仮名を碌に知らぬ子供が一足飛びに漢字を学ぶと同様で、技倆には順序というものがある。基礎をよく勉強して正しい野球をするように努めて戴きたいと思います。

芦屋高校の敗因

高校野球というものを全然みていないので、はつきりしたことはいへぬが、いろいろ噂を聞いているので噂を綜合していへば、技倆は芦屋か小倉かといはれていたが、その優勝候補の芦屋が敗けたというのは結局油断があつたからではないか、言い換へれば精神的に欠陥があつたのだと思います。しかし、選手だけを責めるのは惨酷です。学校後援者その他の方面が選手を甘やかしたのではないでせうか。

野球試合において、相手を甘くみることは禁物です。強敵たりとも恐れず、弱敵たりともあなどらず――ということは千古の金言です。

チームの準備も悪かつたのではないでせうか。食糧も問題でせうし、投手は少くとも二人いなければ駄目ですね。かつて中等野球で廣商が優勝した時、灰山投手は風呂に入らなかつた。ただ身体を拭つただけでした。その位細かい点に心を配つたものです。今度の古橋ら渡米水泳選手團は歓迎会も断つた。監督が十日間選手を罐詰にし、一切面会をさせなかつたということは、さもあろうと思います。

野球選手に憧れるものは多い。それだけ選手は注目されていることを念頭において、その私生活も立派でなければならんと思います。

胸にマークをつけて闘つている以上、全校を代表しているという氣持を忘れず、精神を高揚して、力いつぱい戦はねばなりません。要は精神的に教育する――これが大切ですね。

（寫眞は**山本監督の打球フォーム**）

（一三頁より續く）

任を持つて行こうとする傾向が見える。

最近の新聞を賑わした列車事故に子供が多く関係している事も、背後に家庭教育の欠陥が見えるように思う。眞に自覚えの躾が出來て居れば、或る兒童の作つた標語「兄さんも僕も行くまい線路のそばへ」の如く、自己の行動を正しく整え更に無自覚な友達にさえ失敗をさせないであろう。

南海軍の飯田一壘手も、山本監督と一緒に、岡田氏宅に寄宿していたことがあり、芦屋市に対する大いなる関心の持主、対大映戰に十割安打、十八号ホームランをかつ飛ばして、キング賞を貰つた同選手のハリきつた体格から迸り出る少年スポーツマンに贈る言葉。——

『野球は中間のものではありません。寢ても醒めても野球野球——すべてが野球です。私はいま外のことは何も考へません野球に全力を集中しています。このあいだ二軍の試驗の時話したのですが、練習に耐へ得るかどうか物凄い鍛練に耐へぬくことの出來る人のみが選手としての資格があるのです。まづ叩かねばなりません。叩いて叩いて叩きぬいてこそ、立派なスポーツマンが生れるのです。

猛練習に耐え得るか

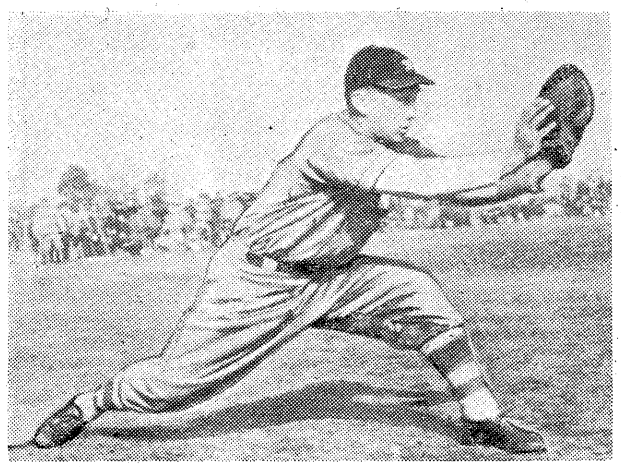
野球選手としての資格

南海軍　飯田一壘手

それと共に、修養が必要です。立派な社会人としても認められる修養が大切です。だから私生活についても批判されることのないように自重してをります。

ファインプレーをやろうとしても出來るものではありません。ふだんの鍛練があればこそ、その鍛練が物を言つて、難球でも思はずグラブに入るのです。

私は魚屋の息子です。貧しい家庭に生れて苦労して來ましたが、今にして思うとその苦労が役に立つていると思いますね。

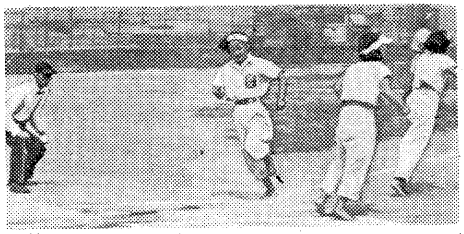


「飯田選手の典型的な守備フォーム」

全日本制覇のあと

芦屋女子高校ソフトボール部長

福田　元



第一回全日本高校女子ソフトボール大会は八月八、九両日西宮球場で挙行されたが、わが芦屋女子高校は衆望を擔つて見事優勝の栄冠を獲得した。同校の輝やかしい勝利のかげには、人知れぬ精進と涙ぐましい練磨がひそんでいる。以下は同校ソフトボール部長福田元先生が、制覇のあとをかへりみて綴つた乙女の敢闘記錄であり、同時に父兄、関係方面に対する感謝の手記である。

昭和二十三年の春ふかい頃のことである。丁度その前年の初春大阪、神戸等の学校に後れること一年にして本校は大いなる希望と抱負の下に、初めてソフトボール部が発足したのであつた。然しながらそれより翌二十三年の春の頃にかけては激しい練習と努力にも拘らず、敗戰の連続で前途暗憺たるものがあつた。無理もないことである。男子でさえも困難を感じる野球技を女学生がその品位を保ちつゝ、然も男子よりは遙かに劣る肉体的條件の下に会得しようと云うのであるから、短日月で好選手を作ろうと考へるのが、そもそも最初から無理な話なのだ。斯樣な極く判り切つた簡單な事柄を始めて悟つた私は、じつくりと腰を落着けてそれ迄の試合の経驗を分析し、チームの刷新を計りつゝ第二期の猛練習に入つたのである。ところが漸く初夏の頃から野球と云うものゝ本質を辨へて來た選手達は、打撃に、守備に、それから試合の運びに、目に見えて熟達して來たのである。特に意を強くしたのはバッテリーの著るしい上達と、内野守備陣の充実であつた。

さて、斯うなると妙なもので、所謂運が向くとでも云うのか、打撃面に於ける選手達のフォームの安定、打球眼の進歩等顯著に表れ、選手達の胸にも漸く自信の芽生えと云う喜ばしい現象が見られる樣になり、私としても祕かに期するところがあつた。はたせるかな、その年の七月末に行はれた近畿大会兵庫予選に於ては二位に躍進し、初の縣代表として選ばれ、遂には晴の本場所に於て優勝候補として自他共に許した大阪下福島校を撃破し、余勢を駆つて一挙に近畿制覇を成し

遂げたのである。時に二十三年八月上旬。部の創立後約一年半のことである。選手は欣喜雀躍した。私も嬉しかつた。勿論学校も沸いた。今迄の苦心は何処かへ吹き飛んでしまつた様であつた。

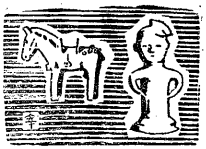
ところが斯様な時こそ最も警戒せねばならない難しい時なのである。そうは判つて居ても矢張り何処かに隙が出て来ると云うものか、附けて加えて他校よりマークされると云う厄介千万な要素が作用する。果してその秋は、最も期待されたシーズンであるにも拘らず、一応スランプなりとは唱へるものゝ決して夏に示めされた力のチームではなかつた。先づ縣大会で破れ更に近畿大会に於ては大阪勢に見事に雪辱されるに及んで、一抹の懸念は現実となつて表れたのである。事此処に到つては何をか云はんやである。然し此事が吾々一同にとつて非常な刺戟となり妙薬となつた事は言を俟たない。かくて変化に富んだ二十三年度を送り希望も新に二十四年の新学期を迎へたのである。

然るに幸なことにチームの変動は極めて少く覇氣も又盛んにして、今年こそはと一同深く期するところあり、私としても技術の練磨は勿論精神面の向上に努力すると共に重要な作戦、コーチに就いても相当高度のものを要求したのであるが選手達は何れも良くこれ等を体得し、チームワークも充分に全校の興望を擔つて勇躍出発したのである。愈々時期は到来した。即ち七月に行はれた縣大会にはさして苦戦もせず本年初の栄冠を獲得し、次いで行はれた近畿大会に於ては大阪の強剛阿部野高校を制圧し昨年に引続いて二回目の近畿制覇を遂げ、遂に待望の朝日新聞社後援による第一回全日本女子ソフトボール大会に栄ある近畿代表として西宮球場に駒を進めるに到つたのである。時に八月八日。

この歴史的な日、炎天の下全國九地区より馳せ参じた可憐な乙女達は精鋭の名に恥かず、二日間にわたり平素鍛練された技術の粋とスポーツマン精神をもつて眞摯敢闘した眞

（二一頁〈續く〉）

写眞 前列向つて右から鶴木(中堅)樋口和(投手)福田(監督)萩野(二塁)平垣(右翼)
後列向つて右から藤井(左遊)八坂(三塁)幸村(左翼)八木(一塁)樋口雄(右遊)前川(補欠)圓尾(主將捕手)



風土記あしや

早野臺氣

芦屋は北緯三四度四四分、東経一三五度一九分に在る事になつてゐる。是は打出の北部を指すものであるが、斯く寒暖宜しきを得た地点にあつて更に暴風を防ぐべき山のカアテンが北に下りてゐる。南には緑の海がぱつと扇子のやうに開けて常時明るい太陽が惜氣もなく降り注いでゐるのである。是は千年前も二千年前も今と同じく芦屋の具へた地理的優秀さである。かかる自然の愛撫の厚い所に、人類は自ら誘はれ且つ住みつかない譯にゆかない。石器時代の人間が芦屋に特に相当の聚落をなしてゐた事は当然とすべきである。殊に彼等の仕事である狩猟と漁獲とに此地は便であつただらう。其頃海は北方山際に接近してゐたのであつて此點今とは異る。遺跡は、だから、山麓か少し下つた山際に限られてゐるのである。現在の芦屋市の地域でいふと三條、城山、打出岩ヶ平あたりから石斧石匙石鏃彌生式土器等が出土した。古老は岩ヶ平以西、土窟の如き物が多くあるので太古、土蜘蛛がゐたなどといふ。島之夫君は発掘物から見て先住民族はゐなかつたらしいとする。同君の否定に近い推測は歴史學などにいはゆる消極的證據によるものであつた。しかし、一方古い物では攝津風土記は古老の言の如く土蜘蛛の事を述べてゐる。結論はまだ下せぬ。余談になるが嘗て古老の中に是等遺跡は古代火の雨火の風の荒れた時に住んでゐたものだと伝唱する者もある事は面白い。火の雨塚といふものもあつたのである。僕など少年の頃、夫に就て少からず童話的な魅力を覚えた記憶がある。今は別な意味で魅力的である。

石器時代を過ぎて古墳時代の遺跡はまた実に多い。是もやはり山に寄つてゐて結局石器出土の地点と相交つてゐる狀態にあるのである。古墳の個所は報恩寺跡、鳥塚(からすづか)、城山、三條、阿保親王御墓附近、岩ヶ平等で処々に大古墳群に接する。土器埴輪鉄器等が見られた。稀な例として銅鐸漢鏡石帶、多い例として朝鮮土器が出てゐる。郷土史研究家の一隊が嘗て此地を踏査し発掘した時の文に「元來芦屋の地は太古より既に住民の生活せし地にて所謂古代の大都会地といふべし」等といつてゐるが当に考へられる事である。更に重要な事は発掘物が示す如き外來民族の定着、其生活方式の影響等の点にあらうと思ふ。

次に古墳時代終つて記録をもつ歴史時代に至つた芦屋はどんな風であらうか。尤も当時の芦屋と称する地域は現

在と異つて甚だ廣い。即ち西は今の神戸加納町筋、東は森具、北は六甲山脈を以て有馬郡と接する籠囲を蒐原郡といつてゐて、此蒐原が其儘芦屋として通るのである。少し補足は要するが大摑みにはかやうな次第であるから古文献に接する時常に此注意が拂はれねばならぬ。そこで今できるだけ現在の市を離れずに文献に索ねるとここに住した古氏族は凡河内忌寸、山守部、大和連石占忌寸、葦屋漢人、志賀忌寸、葦屋村主、土師連を挙げる事が出來る。殊に凡河内の氏族の祖神は天穗日命であつて現在の芦屋天神社の祭神である。この氏族が最も勢力があつたに違ひない。兎に角是ら諸氏族は殆ど漢人朝鮮人の帰化民乃至その子孫なのであつて芦屋の浜を漢人浜ともいつた位であるから、其特技である機織等を中心として活潑な動きをみせたのである。古墳時代に既に移住の基礎があり神功皇后以後急激に此事は増大した模様である。一方地形的には沖積作用は絶間なく進行して芦屋の陸地は海へ拡大しつつあつたのである。奈良朝には報恩寺の大伽藍が建てられる。平安朝初期、猿丸太夫の名が見える。阿保親王は芦屋を荘園とし、男、在原業平が又ここに來住する。業平の屋敷から西北を見れば巍々として聳える報恩寺の堂塔は近く数丁の距離にある。此時打出には既に親王寺も建つてゐるといふ具合である。何分海陸とも交通上の要地であるから幾多の人の通行宿泊を見たであらうし、平和な芦屋として最も美しく世に喧伝された時代であるべきである。此以後芦屋は破壊面が著しくなる。即ち数戦場と化したからである。其中最も激しいのは永正八年細川両家の死闘と天正六年信長による荒木村重攻撃の合戦とする報恩寺其他の社寺民家等は多く灰燼に帰した。又戦略的布陣は度々是を見るのである。理由は此地が其必要な地理的條件を具足してゐるが故に外ならない。芦屋は明暗何れの世にも重視されること実に不思議な位である。斯くて德川期に入つて明和六年には一部を除いて天領とされ遂に明治を迎へたのである。

（紙數に制限のある爲參考文献の掲載を全部省き又通説に從つた所がある。）

私の好きな歌（公城）

朝かげのおもてに見れば山松や全くしづけく秋めきしかも（北原白秋）

うち日さす都乙女の黒髪は隅田川べの上に散りぼふ（島木赤彦）

おいらくの父となりましぬ盃を賜びつゝわれに満し給へり（吉植庄亮）

わが膝に子のすがる時おほけなくマリアの如き心わくかな（茅野雅子）

温かい気持で迎へよう

—ソ連からの引揚者を迎へて—

芦屋市会副議長　井田健次郎

今年になつてソ連から、相当多数の復員者が引揚げて來つゝある。わが芦屋市に既に十幾人の市民が、なつかしの郷里の土を踏んだ。

これら、ソ連からの引揚者を芦屋駅頭に迎へ万感こもごも胸に迫るものがあつた。色黒々と陽に焼けて、一見逞しい感じではあるが、節くれ立つたその手と共に、抑留地における労苦を如実に物語つている。

『ほんとうに御苦労さまでした。』思はず口を衝いて出るこの言葉は、心からなる感謝の氣持の現はれである。

間違つたミリタリズムの犠牲になつたのではあるとはいへ、日の丸の旗の波に送られて、勇躍して出征した当時を想へば、敗戰の祖國の土を踏んで感無量のものがあろうとお察しする次第である。

世上、引揚者の態度について、いろいろの批判が行はれている。思想的影響をうけて、ある党に入党した者もあろう。しかし、芦屋市の引揚者についてみれば、現に入党者はいないようだ。

早く家族に逢いたいばかりに、心にもないゼスチユアをとつた者もあつたろうと思う。しかし、現実に芦屋の引揚者は温厚だ。過激思想は持つていないようだ。これは、私の感じたところであるが、引揚げ事務当局者も、そのように観察してをり、妥当なみかたではないかと思う。

実情は左様であるにも拘らず、市民のなかにはソ連の引揚者を色眼鏡でみる向もあるようだが、そのように色眼鏡でみられるとすれば、彼らの心は暗くならざるを得まい。それでは実際氣の毒である。

市民のみなさん。芦屋市の引揚者はみな温厚な人ばかりである。どうか実情を直視していただき、あたゝかい氣持で引揚者を迎へて下さるように、切にお願いするものである。

（一八頁より）に感激的な二日間だつたのである。勿論本校チームは実力の総てを投げ出して闘つた。悔の無い善闘であつた。「人事を盡して天命を待つ」ところが総ては吾等に幸したのである。地の利、熱烈な応援團、是等は一体と成つて作用し好運の赴くところ是を遮るもの無く、遂に夢に迄画き來たつた第一回の全國制覇を完遂したのである。この日のあらん事を全員如何に熱望したことであろう。ただ感無量の一言に盡きると共に、一抹の感傷の漂うを如何ともし難い。勝者の悲哀とも云ふべきか。

芦屋市青年諸君に寄す

芦屋市連合青年会長
神田　清

終戰後既に四年。憶へば昭和廿年八月十五日ポツダム宣言受諾の詔勅を拜して以來、日本は新らしく近代民主國家としてのスタートを切り、ひたすら精神的更生と物質的復興を目指して廃墟の中から立上り、文字通り忍苦と耐乏の道を歩みつゞけ、連合軍の御厚意と恩惠のうちに漸く自立國家としての明るい見通しもつくところまで漕ぎつけたのでありますが、今後尚われわれの上に残された社会的経済的諸問題が山積してをり、好むと好まざるにかゝはらず、この重荷は日本人の一人一人が老若男女を問はず、勇氣と誠意を持つて背負つてゆかねばならないことは申すまでもないのであります。

前途まことに多事多難なるこの秋、当市におかれては逸早く弘報『あしや』を発刊され、市民と共に世界に誇る文化都市建設に邁進されんとする指標を示されたことはまことに時宜を得たことゝ、関係者諸彦の御労苦に対し市民の一人として感謝の意を表するものであります。

不肖、浅学菲才をもかへりみず当市青年会役員を命ぜられ、不束ながら青年諸君と共に若さと情熱をもつて会の運営に努力致してをるのでありますが今後、とくにスポーツを通じて身体の健全なる発達をはかると共に、品性の涵養に努め、延いては老若男女を問はずスポーツを楽しむことによつて、市民諸君の融和をはかるところまで持つてゆきたいと念願するのであります。

古橋選手のロスアンゼルスにおける超人的記録は、戰後日本スポーツの國際復帰の先陣を承つたものだけに、久方ぶりに我々を感激させたところであります。勝敗を度外視し、ただ最善を盡すところに運動精神があると大悟された古橋選手の努力がこの輝かしい大記録を生んだ所以であり、我々にとつて尊い教訓であると信じます。

本誌創刊号において、松岡体育協会長が申された如く、我々はチャンピオンの養成ということには目的をおかず、文化人としての資格としてスポーツ精神を理解し体験し楽しむといつた方面に持つてゆきたいと念願するのであります。

体育協会におかれても、スポーツ都市実現についての豊富なるプランを御計画の事と思いますがこれが実現について更に御努力あらんことを御願いし青年諸君に寄せる言葉といたします。

特別都計について

建設局長　越賀敏夫

小職当芦屋市建設局長として就任以來、未だ二箇月に満たない今日、建設面における市としての進むべき方向について云々し、又は推断することは時期尚早との譏を免れないかも知れませんが、当市として焦眉の急を告げるものは何んと致しましても六、三、三学制に対処しての新制中学整備の問題と、特別都市計画法に基く戰災復興事業かと存じます。このうち、今回は小職が日常直接に関與して居ります戰災復興事業について一言申し述べてみたいと存じます。

すでに御承知とは存じますが、当市として正式に政府当局から認可せられて居ります戰災復興事業施行区域の総面積は、二七七、〇〇〇面坪でありまして、当初計画と致しましては昭和二十一年度から向う五ケ年間に、即ち昭和二十五年度中には一応完成せしめることになつていたのでありますが、その後における社会情勢の変化に災せられ事業意の如く進捗せず、ために完成年度の繰延べも亦已むなき事情に迫られているのであります。この事実は独りわが芦屋市に限つた悩みではなく、全國的に共通した悩みでありまして、当事者としても頗る苦慮している次第であります。

いま御参考までに当市における本事業の進捗状況（但し本年度末迄の分を見込む）をその主要種目について略記すれば次の通りであります。

種目	全体数量に対する出來高百分率
確定測量	五四、〇%
清掃	二、二%
街路整地	六三、〇%
仮換地	四五、四%
清算	二、二%
用地買收	一三、六%
建物等補償	二二、四%

そこで当市としては翌昭和二十五年度には万難を排しても本事業の一大進捗を計り、一日も早くこれが完成を期したい堅い決心でありまして、その実施計画における大体の方針を簡単に申し述べますと、明年度は全地区五ケ工区中従來その一部しか、或は又殆んど手をつけていなかつた第四工区（松ノ内町、月若町方面）および第五工区（打出方面）に主力を注ぐ方針であります。右両工区に対し換地予定地を指定すると共に、これに伴う確定測量を終りもつて全地区における換地指定並に確定測量の完結を期し、尚又全地区にわたり換地指定地の利用を有效ならしめるため、特に重点的に公共用地上の障害となる建物の移轉を実施し、少くも全地区の五%の移轉を完了せしめたい所存であります。

しかし、これが実施に当つては、種々と公私の利害関係が錯綜するのが常であります。われわれ当事者が如何に力んで見ましても、本事業に直接関係のある方には勿論、直接の関係はないまでも間接的には多分に関係を有せられる全市民各位の深甚なる御理解と絶大なる御協力なくしては絶対に成果を期待することは出來ないのであります。よつて、小職は茲に全市民各位が本事業の重要性並に公共性を充分に認識せられ、もつて全幅の御協力と御支援とを賜らんことを切望して擱筆する次第であります。

海を越へる打出焼

宮様お賞めのローケツ染
長い歴史を誇る櫛

あしや 特産品紹介

文化の匂い高い芦屋市には、その名にふさわしい特産品があり、数々の改良工夫によつて、その眞價を中外に問わんとしつつある。

打出焼

そのなかでも、「打出焼」は古くからその名を知られ、独得の技術と、土質を生かして特産品の少いわが郷土の代表的特産品の名を誇つている。

戰後、うちつづく不況に、一時その命脈は断たれんとしたが、観光客の外貨獲得によつてお國に盡すほかはないと決意した打出焼元祖阪口淳氏は、再興の意氣に燃えて、目下さかんに良心的な製作に努力している。

去る日、アメリカ・プレジデン・ラインズ神戸支社キリオン氏に托して、観光客に打出焼の紹介宣傳を依頼したところ非常に珍重がられたので、將來打出焼がはるばる海を越へてアメリカヨーロッパへ船出する日も遠くはあるまい。

ローケツ染

美術工藝品としては湊弘夫氏とその門下によつて製作されるローケツ染がある。

同氏は、つとにジャワバチックを研究し、その長所を採り入れて旧來の型を破り、独自の染色藝術を創作することに成功し、現在默々として製作に当ると共に、後進の指導につくしている。

去る日、秩父宮様、高松宮様に献上したところ非常にお喜びになり、ますます勉強して立派な作品を創るよう、御激励の御言葉を戴いたのに感激して同氏は郷土への愛着をこめて、このローケツ染を「アシヤバチック」と命名し良品製作に懸命になつている。

櫛

また、数十年の傳統と歴史を誇るセルロイド、牛角櫛がある。打出西田製作所の苦心の作品がそれで、この櫛は関西よりもむしろ関東方面へ大量売り捌かれ、多年の経驗と不断の研究によつて、その眞價については定評がある。販路は、戰前南洋方面にまで伸びていたが、今後輸出品として欧米諸國にまでその駿足を伸ばすのは遠い日のことではあるまい。

望ましい「工藝指導所」の常設

以上、郷土産物の現状について、簡單に紹介したにすぎないが、これらの芦屋特産品が將來市の発展に大きな貢献をするであろうことは疑いを入れない。ローケツ染、打出焼の如き工藝美術品については、市民有志の盡力によつて「工藝指導所」の如き機関が常設され、これが指導普及に一役を買うことは、市の発展のみならず國の産業振興のためにも、喫緊の急務ではあるまいか。（宙外生）

自轉車を愛しませう

芦屋警察組合警察署防犯係

自轉車は今日文明の足として皆様方の活動に大きな貢献を致して居るものでありますが、自轉車を愛しない人の爲に泥棒の手に渡るものが最近特に多くなつて参りました。昨年一月から本年六月迄の一年半の間に此の芦屋警察管内だけでの次の様な数字を示し

期間	盗難台数
昭和二十三年一月―六月	一一一台
同 二十三年七月―十二月	一三七台
昭和二十四年一月―六月	一四五台
計	三九三台

漸次増加の傾向にありますことは洵に遺憾に存ずるのであります。そして泥棒の手に懸つた自轉車は乗り逃げて捨てられたり、轉売せられたり、又甚しきは解体せられたりして無慘な最後を遂げて居ります。又多くの人々の中には自轉車を愛妾の如く陰の物として登録せず「脱税？」使用される向も相当の数に上つて居ります。之も過日僅か二日間だけ一齊取締を致しましたところ

市村名	取調車輛	無鑑札	比率
芦屋	一、四八二	一六四	一一%
本山	五三六	四三	八%
本庄	六九〇	九〇	一三%
計	二、七〇八	二九七	一一%

という数字で百台中、十一台は無鑑札（脱税！）という現状にありますことはこれ又眞になげかわしいことであります。どうか市民の皆様自轉車を心から愛し心から護りませう。

道路の整備を急げ

斎木道久

○十年振りで芦屋へ帰つて來て芦屋市役所が昔の村役場時代とガラリと変り各課共非常に優秀な吏員で充実されて居るのに先づ驚かされた。親切で行届いて居て、しかもテキパキと能率的なのには感心した。小生が接した窓口は戸籍、教育、厚生、水道の各課であつたが何れも右の通りであつた。他市町ではどうてもこうは行つて居らぬのを知つているだけに、芦屋市役所の吏員各位のデモクラシー精神の発露に対し敬意を表せざるを得なかつた。

○芦屋の消防も亦優秀である。今夏拙宅の近所で失火のあつた際電話通報に依りものの五分とたたぬ内に消防自動車がかけつけ消火に成功した。あたり前と云へばそうかも知れぬが兎に角附近住民はその迅速な行動に感謝して居る。

○海岸のドライヴウエーと云うとギリシャのアテネ市のそれを思い出すが快適なペイヴされた海岸沿いの道路に面して、青天井へテーブルと、椅子を並べた料理店があちこちにあり、ボーイの持つて來た籠に這入つた魚を選るとすぐ塩焼にして來るのでビールのさかなにして、よく夕食をすましたものだ。芦屋も、ヨットハーバー、指定地となつたからには、臨海ホテル、遊園地、テニスコートも至極結構な事乍ら、あの蜿蜒とした土堤を利用してもよし、又あれと平行して海岸沿いに思い切つて廣いドライヴウエーはぜひ実現して貫い度いと思う。

○芦屋で困る事は、氣持のよい散歩路の無い事である。夕食後三十分か一時間氣持よく散歩の出來る道が欲しい。この意味から街路樹を植えると市全体が引き立つと思う。観光芦屋の將來は建物や色々の施設よりも先づ道路の整理と路面の補装を優先的に採り上げて實現して頂き度い。これは自動車所持者のみならず一般市民の切実なる要望と確信する。（筆者はシェル石油株式会社勤務の会社員、五十才、大正十年から芦屋に住み最近十年海外生活と疎開、昨年三月復帰現に打出親玉塚町六八に住む）

御存じですか

皆様の『選・・・管・・・委』を

選挙管理委員会
委員長 佐々木清次

民主日本の総ての選挙管理は知事や市長等の手を離れて選挙管理委員会に移つて居ります。民間出身の委員より成る「選管委」は公正を第一義として選挙による民主政治確立の爲に献身御奉公申して居ります。市民生活に直結せる民主政治は選挙により左右せられます。この偉大なる選挙投票力は有権者の皆様にあります。皆様、生活安定のために民主政治確立のためにこの偉大なる選挙投票力を思う存分に発揮しようではありませんか。

尚「選管委」には事務局を設け書記長以下專任書記等が皆様の公僕として選挙事務の処理に関係法規の研鑽に邁進してひたすら選挙成績の向上に努力致して居ります。選挙に関する一切のことは、「選管委」え一寸電話で御問合せ下さらば親切に応答申します。

又皆様におかれても年に一度位は皆様の「選管委」をお訪ね下さる様に御希望申します。選管の公正、民主政治の確立即生活安定等につき御高見も何いたくいろいろ打ち解けて快くお話致しましよう。

因に毎年の通り十一月五日より十九日まで選挙人名簿を縦覧に供しますからお越し下さい。万一脱漏して居る方があらばその際直に御申出下さい。

各課だより

新しい教室

学務課長　村上邦雄

子どもたちの机が六人ぐらいづつかたまりあつていて、頻繁に「話しあい」や、「共同研究」をする。先生は多くの時間、教壇の上に居ずに子どもたちのあいだを行き来している。「今日は、何のお勉強をしましようか？」と、子どもたちに相談する。子どもたちが、つぎつぎに意見の発表をする。それも、先生の指名によるよりは、子どもたち相互の名指しで進行する。消防署の見学に行つて、火の見やぐらに登る。森に行つて、木の枝に顔をよせて、芽のようすを見る。ピアノをひく子供。ハーモニカをふく子供。作曲する子供。

「新しい教室」という映画が、そういう教室のようすを、次ぎ次ぎにうつしてみせた。「見ていたお母さん方や、近ごろの学校は、何と、変つたことね。」

「ええほんとうに。あれが、新しい教育というもんかね。」

「うちの太郎は、あれじやあ、何にもようすまいね。」

と、感心したり、心配したりしていた。

その映画のうつしていたようすは、ひどくまちがつてはいなかつた。しかし、「映画」にするつごうで、派手な、変つた場面、にぎやかな場面ばかりうつし、場面々々を不徹底なままに、次ぎ次ぎと変えて行つていたきらいがある。「新教育」が、すべて、あの映画のようなものだと思いこんで、恰好だけ、あんなふうにしたのでは、危い。「新しい教室」にも、もつともつと地味な姿がある。

しかし、また、旧態依然、時間割通り、教科書通り、一頁々々を、時間々々に小刻みに、ゴモクメシのように、ノロノロと教えている教師のばかりを歓迎する親たちがあるとしたら―これは恐しい教育である。

どんなのが、ほんとうの、新しいよい教育か、よく考えたい。くわしくは、熟心な、研究的な、着実な先生方と、話し合つてみてほしい。私も、そういうことを、とつぶり話し合い、実現したく思い、それにとりかかつている。

皆さんの水道です

水道課長　木村信忠

当市の上水道は布設後十一年目に当ります。一般に水道施設は十年後を見越して計画されますから、芦屋市の水道も拡張の時期に当面しているわけであります。

既に現在の施設能力では、市民各位への給水が精一杯であります。夏季御水や、時間給水の居迷惑をかけるような段階に立至つて居ります。阪神上水道組合からの受水も限度がありまして、水道課と致しましても、色々と増強計画、水を樹ての費用を要しますので、早急に何分にも巨額の実施することは困難の状態であります。

公企業体とは言い條、結局市民の水道であることをよく御認識願いまして、何卒家庭の漏水防止と節水に御協力下さいます様、御願申上げます。

税制勧告案について

税務課長　山田勘作

今回発表になりました税制使節団ヤープ博士を直接御関係の深い地方制度改正の要点を拾つて御参考迄に御指摘記しましたけるものを左記一覧の御協力たいより円満な税務行政導入と進行の勧告によりまして地方財政の自主性が漸く実現を見られる明るいものを本市将来の財政の上に期待致します。

感じまして一市民として誠に御同慶に堪えない次第であります。

(1) 國税

所得税（二四、〇〇〇円から一人一二、〇〇〇円（五、〇〇〇）

基礎控除　扶養控除　所得税額（現行）から一人年一、八〇〇〇円

右の外扶養家族範囲が拡張せられて十九才以上六十才未満でも親ならば生活費の半分以上を補助して居る場合は扶養家族として認められるやうになりました。

(2) 富裕税（新設）

所得金額五百万円以上のものに極く低率の〇・五%から三%の累進課税されれる事に勧告されて居ります。

(3) 相続税

被相続人の遺産については各相続人毎に課税、基礎控除三〇、〇〇〇円その外一生を通じて十五万円の累積控除方を勧告せられて居ります。

(4) 織物消費税

絹織物の消費税一割（四割）

(5) 物品税

履物、靴は免税、宝石、カメラ等七割（十割）砂糖消費税は廃止

府県税

(1) 廃止（移譲）地租、家屋税

尚別に不具廃疾者は所得一二、〇〇〇円や医療費と盗難等による損失も一〇%迄を限度として控除せる上に合算課税を廃止する様に勧告せられて居ります。

(2) 存続税目

遊興飲食税、鉱区税、鉱産税、電氣ガス税、自動車税、軌道税、電柱税、木材取引税、漁業権税、狩猟者税、入場税減税又は廃止を勧告せられて居る税目

(3) 減税

県税附加税、市町村税の減税目

漁業権税、軌道税、狩猟者税、電柱税、入場税等の附加税の廃止

車馬税、動産取得税、船舶税、電話税、自動引取税、木材税の確附加税制度を廃止、市町村の自主性を移譲せられて市町村独立税となる目の勧告をうけて居る税目又は移譲

(1) 地租

家屋税

指定税目中存続を勧告せられて居る税目

(2) 屠畜税

廣告税、接客人税、使用人税

(3) 減税

又は廃止を勧告せられて居る税目

金庫税は多分減税自轉車及び荷車に対する取得税の廃止

右の通りであります。

大体（不動産税）は現行の約三倍増徴を勧告せられて居ります。

課税標準は現行の賃貸價格ではなく、資本價格（時價格）を課税標準として一七、五%の税率となり勢い地代家賃の値上は必至と考えられます。

市役所の機構案内

秘書課

市役所は業務を円滑にするため、次の様な局室課に分れています。

課名	業務
秘書課	廳内職員及び市長助役の秘書に関すること
企画課	各種調査統計の企画事務並び外人登録に関すること
会計課	收入及び支出命令による執行及び市金庫に関すること
教育室	各種実施事業の弘報事務並びに各種教育に関すること

学務課	学校幼稚園に関すること
社会教育課	社会教育施設及び史蹟名勝天然記念物等に関すること
総務局 庶務課	予算の編成及び経理並びに條例規則に関すること
税務課	縣市税に関すること及び土地台帳家屋台帳副本及び地図に関すること
戸籍課	戸籍及び寄留に関すること及び埋火葬認許に関すること
経済課	生活必需物資の配給、農地管理及び農地委員会に関すること
厚生課	生活保護復員者及び海外引揚者に関すること並びに住宅斡旋に関すること
衛生課	保健衛生並びに葬儀及び火葬場に関すること
建設局 土木課	市の区域境界及び町名、地番の整理に関すること並びに土木関係戦災復興に関すること
建築課	建築物の綜合計画及び技術的調査に関すること並びに建築関係許可申請に関すること
水道課	上水道の設計並びに工事に関すること

生きた掲示板

打出出張所長　土居盛一

　終戦後町内會制度を廢止されてから皆様へ掲示板で配給その他の事柄を御知らせして居りますが、未だ徹底せず御互に迷惑を感じて居りますことは甚だ遺憾な次第であります。

　今後掲示板を御覧になつた方は、次々と知らし合い、掲示板の趣旨を徹底させる事に御協力を願うと共に、ただ他人から御聞きしたと來所されずに、もう一度よく掲示板を御覧の上、手違いのないよう、御互に生きた掲示板として利用する事に御協力を御願いいたします。

企画課の新設について

企画課長　魚谷正弘

　先般の機構改革によつて企画課が新設されましたが、企画課の仕事は、芦屋市の発展に寄與貢献するため、綜合的企画立案ならびにこれを実施するにありますが、これに付随して市民各位に対する市政の侵透ならびに世論を市政に反映する弘報に関する事務を初め各種統計調査事務および観光に関する事務をも包含しているのであります。

　ついては、將來市民各位の尚一層の御指導と御鞭撻を賜りたいと存じますので、忌憚のない御意見を承れば幸甚に存じます。

山手開発について

土木課長　西村清三郎

　大阪、神戸等の大都市に事業場を持ち芦屋の山手で住居したいという希望を持つている人達が段々と多くなつて來た。本市の人口も追々と増加している。昭和元年二万人、昭和十五年には四万人、即ち十五ケ年間に二万人の増加であつて現在は、それ以上の増加率を持つて増えて居る。

　將來十数年にして本市人口は六万を突破するだろう。人口増加に從つて北方丘陵地帯に家屋も増えて行くのは当然である。無統制に家を建て各自が個人で私道を造り自然のままに任せて土地が発展して行けばこの一帯の土地の利用價値は問題にならない程低下すると同時に市政のメカニズムを阻害することも少くない。

　そこでこの天惠の風土、環境の好適な丘陵地帯一円の宅地造成事業こそさし迫つての山地開発の大切な仕事であり亦、本市発展のために是非実現せなければならない事業であると信ずる。

　即ち朝日ケ丘、東山、岩園町、二十数万坪の國有林山麓に至る緩傾斜地帯を対照として、都市計画、土地区画整理事業を起して、道、水路、公園、緑地、学校、教会、商店街を計画し、他はそれぞれ組織的に住宅街を予定、自然のスロープを前庭に持つた、探光通風満点の宅地造成を行う。然して既設の六麓荘、岩ケ平、打出山手等の住宅地と連絡し整理されない土地と整理された土地とが相交錯している如き現状を除去して、市政運用の円滑を期する事が必要である。

　問題は事業費財源であるが、従來の土地区画整理事業が、替費地（費用充用地）処分の方法をとつて來た如く、本事業も土地関係者より一定の率を以て土地を減歩して適宜の面積にまとめ学校アパート、住宅その他の敷地として之を処分しそれをもつて事業費に充当するより他はないだろう。近代都市形成の一要件として本事業の達成を切に念願するものである。

公を調べませう

経済課

　物價事務局並に縣告示による理髪料並に洗濯料の現行統制額は左記の通りであります。

統制額

（一）理髪料並に洗濯料

(1) 髪洗料金（特定地区）

店舗等級		統制額 大人	統制額 小人
特定地区	A級店	円 三〇、〇〇	円 二〇、〇〇
	B級店	二五、〇〇	一五、〇〇

註　ポマード、チックその他仕上げに要する一切の資材労賃を含む。

(2) 美容料金（特定地区）

種別	特級店	並級店
パーマネント	二〇〇、〇〇	一五〇、〇〇
セット	六〇、〇〇	四〇、〇〇
ドライングヘヤー	三五、〇〇	三〇、〇〇
パーマネントのみ	一四〇、〇〇	一二〇、〇〇
シャンプ	三〇、〇〇	二五、〇〇

（註　リンスセットを含む）

(3) 洗濯料金

A 洋服類（男子）

品名	単位	種別	料金
背廣服三ツ揃	一組	冬、合物	三〇〇、〇〇
〃　上衣	一点	〃	一〇〇、〇〇
〃　チョッキ	〃	〃	二〇、〇〇
〃　ズボン	〃	〃	八〇、〇〇
〃　三ツ揃	一組	夏物	三〇〇、〇〇
〃　上衣	一点	〃	一〇〇、〇〇
〃　チョッキ	一点	〃	二〇、〇〇
〃　ズボン	一点	〃	八〇、〇〇
冬オーバー　トンビ	一点		三〇〇、〇〇
合オーバー　トンビ	一点		一八〇、〇〇

B その他

品名	単位	種別	料金
ワイシャツ	一点		三〇、〇〇
カラー	一本		五、〇〇
ネクタイ	一本		一〇、〇〇

C 帽子類（男子）

品名	種別	料金
中折帽子	ウール製	七五、〇〇
中折帽子	フアル製	八五、〇〇
〃	ベロアー製	一〇〇、〇〇
鳥打帽子		五〇、〇〇
パナマ帽子	紙製	八〇、〇〇
〃	草製	一〇〇、〇〇
〃	本パナマ	一一〇、〇〇

市会・委員会だより

―八月・九月―

○財務委員会（八月十七日）
芦屋郵便局舎敷地及び建物売却の件
その他

○総務委員会（八月十七日）
精道分團用消防自動車車輛購入の件
その他

○教育委員会（八月十九日）
機構改革に伴う人事異動の件

○総務委員会
職員定数條例設定の件、その他

○総務、教育、建設委員会（九月八日）
山手中学校建設の件

○建設委員会（九月九日）
翠ケ丘住宅建物基礎一部設計変更の件

○建設委員会（九月十七日）
宝籤住宅の入札の件、その他

○民生委員会（九月十九日）
市営打出湯開場式挙行の件（清水湯完成のため視察）

○総務委員会（同日）
國有財産拂下の件、その他

○八月臨時市会（二十九日）
例月出納検査結果報告の件その他

○九月定例市会（二十二日）
芦屋市競輪條例設定の件その他

警句

◎私は迷つた。迷い抜いた揚句ついに私は眞の道を見出した。
—セント・オーガスティン—

◎おれはこんな悪人だ、だが誰がおれより善人だと云い切れる者がいるか
—ルソー—

◎自分自身の内から、また惠まれた周圍の環境から天才が徐々た発展して行く、これがその道行である。
—ゲーテー—

ものは附

眞弓

◎センスのある男は……老獪な男
◎話せばわかる男とは……袖の下のきく男
◎蟻の這い出る穴は……裏口営業
◎うるさい男は……忠実な部下
◎頭の黒い鼠は……口の上手な男
◎遠きは花の香近きは糞の香は…四面楚歌となる人
◎有爲の士とは……悪評のよく飛ぶ男

編集後記

よいシーズンを迎へて皆さまが大いに張り切つて原稿を書いて下さつたので、今月号は玉稿殺倒編集子はうれしい悲鳴をあげました。ほんとうにありがたい次第ですが、紙面の都合でやむなく次号に廻さざるを得なくなつて、大へん失礼をいたしました方もありますが、あしからずお許しを願います。

◇

次号には、いろいろと新企画をもつてお目見得をするつもりですが、皆さまのお氣づきの点と共に、紙面についての忌憚なき御批判をお願いいたします。

◇

新企画は祕中の祕ですが、ただ一つだけ御披露いたしますと、次号からは(市政展望)と題して、朝日、毎日、大阪、神戸四新聞社の記者諸君が、市政一般について鋭い批判を寄せて下さることになつています。御期待下さい。

◇

手前味噌になりますが、創刊号は評判がよくて、予想以上に売れましたので、今号からは増刷いたします。固定読者を募りたいと思いますので、市役所企画課弘報係ならびに出張所へお申込み下さい。

◇

つぎの第三号は十二月一日發行となり、原稿〆切は十一月十日嚴守という建前を採りたいと思いますので、絶対におくれないように玉稿をお寄せ下さるようお願いいたします。

あしや 第二号

頒價 十円 送料 六円
隔月発行 送料共一年分九十六円
昭和二十四年十月十日印刷
昭和二十四年十月十三日発行
編集人 松岡正夫
発行人 猿丸吉左ェ門
印刷所 京都市中京區壬生花井町三 日本写眞印刷株式会社
発行所 芦屋市役所
芦屋市精道町九三

東京法殺傷事件

阪神電車芦屋行急行東京法殺傷事件

電話芦屋三八五番

東京藩殺法

東京藩殺法研究會
東京市芝區信濃町
電話芝三八五四番

昭和廿四年十月五日印刷
昭和廿四年十月十日発行

芦屋市公報　あしや　第2号

頒價拾圓

◎内案御店商名有り通八三る信用◎

爲によい品を賣る衣料品專門店
服生地
雜貨
衣料品
千鳥屋
芦屋市三八通リ
電話芦屋二三九三番

革靴と布靴の
指定配給店
神戸屋靴店
電話芦屋四七五一番

味のよい!!
コーヒー、
ぜんざい
和洋菓子
喫茶タモン
三八通リ千鳥屋前
皆様の御休憩所

荒物・金物
陶器類一式並子供乘物
ニシモト
電話芦屋三四六四番

一番古い店
一番新しい品
八木食料品店
三八通リ・本通リ
電話芦屋三八五三、三八五四番

ラジオ・デンキの事なら
芦屋で一番古い信用ある
長濱電機商會
芦屋三八通リ